R5 事業概要紹介資料

事業名：明治大学　現代マンガ図書館所蔵マンガ本目録データ作成事業
団体名：学校法人明治大学

【概要／課題と経緯】
現代マンガ図書館は、国内最大級の蔵書を保有する専門図書館であり、設立者の故・内記稔夫氏が 50 年以上にわたり収集した約 27 万冊を保有している。
・平成 21（2009）年に寄贈を受けた時点で目録は紙の台帳で、検索・閲覧は来館者に限られていた。
・平成 23（2011）年、目録のデータ化作業に着手。
・平成 27（2015）年からは、メディア芸術アーカイブ推進支援事業の支援も受け、
・令和３（2021）年にそれまでの成果物である目録データ 19 万件をインターネットで公開、検索・閲覧を可能とした。

【昨年度実績から本年度の取り組み／手法】
従来は、現物を分類
・配架した「配架済資料」からのデータ取得だったが、それを完了し、
・令和４（2022）年度からは、「未配架資料」を対象として、限られた空間と要員での作業への工夫が必要となった。　ISBN により MADB（メディア芸術データベース）から目録データを取得し、配架する新しい方法を試み、有効であることを実証。
・本年度は、残る未整理資料全約６万冊の内、雑誌等を除くマンガ単行本約４．５万冊超のデータ取得を試みた。

【成果】
・ISBN による MADB からのデータ取得率が 81％を超えており昨年に続き有効性が確認できた。
・取得・作成した目録データ（36,766 冊）は、明治大学学術成果リポジトリに登録、公開予定。
・インターネットでの作品発表が増えており、マンガにおける「雑誌」の役割の転換期にある。その中にあって当館の蔵書は、雑誌と単行本、その評論といった「書籍」による「日本のマンガ文化の歴史と全体像を反映するコレクションである」と言える。
・27 万冊の蔵書がデータベース化され、出納・閲覧を可能とし、インターネットで検索・事前予約・郵送複写・レファレンスが可能となることの「文化・学術的な意義」は大きい。
・本年度、単行本の書誌データ取得が完成し、次年度の雑誌における残資料の整備を経て、コレクションの全貌がリスト化されることにより、米沢嘉博記念図書館、国立国会図書館、その他マンガ専門図書館との所蔵資料の同定・差分検証、補完調査など、更なる活用が期待される。

【残された課題】
コレクションの全貌把握を優先し、配架作業を先送りとしているため、目録データとしての早期完成、活用は期待できるが、出納・閲覧のためには配架が必要であり、再来年度以降、６万冊の

合理的な配架作業計画が必要となる。

明治大学学術成果リポジトリ「2023 年度明治大学現代マンガ図書館書誌所蔵一覧（コミックス）」
https://meiji.repo.nii.ac.jp/

明治大学現代マンガ図書館 OPAC（米沢嘉博記念図書館と共同）
https://manga.meiji.jp/Opac/search.htm?s=5YS1vzZKPBLCwv2TA9pmYx067ib